

# 令和4年度血液センター事業計画

## 1 血液製剤の供給計画

県内医療機関の血液製剤の需要状況を的確に把握し、安定供給に努めるとともに、東北ブロック血液センターとの連携を強化し、血液製剤の適切な在庫管理に努める。コロナ禍においても令和3年度の県内医療機関における輸血は、総じて通常どおり実施されており、血液製剤の使用には大きな変化がないことから、直近の需要動向を加味し、令和4年度計画については、令和3年度見込みより微減の計画とし、前年度計画比100.7%で策定している。

区分	令和4年度 計画（単位）	令和3年度 計画（単位）	令和3年度 計画増減 （単位）	令和3年度 計画比	令和3年度 見込（単位）
赤血球製剤	52,100	51,400	700	101.4%	52,146
血漿製剤	14,500	14,800	▲300	98.0%	14,592
血小板製剤	55,500	55,000	500	100.9%	55,695
合計	122,100	121,200	900	100.7%	122,433

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位、「成分献血由来」を4単位として換算

血小板製剤：1単位 20mL で換算

## 2 献血の受入

医療需要に見合った適正かつ効率的な献血受入を推進するため、東北6県合計の供給計画を基に、全血献血は、東北各県の供給計画と献血可能人口に近い生産年齢人口を基準とし、献血実績及び採血規模等を勘案し、成分献血は、東北各県の固定施設設置状況や献血実績等を勘案して、東北ブロック内で調整し、献血受入計画を策定しており、令和4年度計画については、前年度計画比99.8%の計画となっている。

	令和4年度計画			令和3年度計画	
	計画（人）	種別構成比	令和3年度 計画対比	計画（人）	種別構成比
全血献血	27,242	67.8%	100.0%	27,239	67.7%
200mL 献血	666	（ 2.4% ）	88.6%	752	（ 2.8% ）
400mL 献血	26,576	（ 97.6% ）	100.3%	26,487	（ 97.2% ）
成分献血	12,928	32.2%	99.4%	13,010	32.3%
血漿	8,658	（ 67.0% ）	99.1%	8,740	（ 67.2% ）
血小板	4,270	（ 33.0% ）	100.0%	4,270	（ 32.8% ）
合計	40,170	-	99.8%	40,249	-

### (1) 全血献血

令和4年度計画については、東北6県全体の山形県の占める生産年齢人口割合12.0%で算出され、令和3年度とほぼ同等の計画で策定されている。

(単位：人)

	令和2年度実績	令和3年度計画	令和3年度見込	令和4年度計画
200mL 献血	1,009	752	814	666
400mL 献血	27,526	26,487	26,852	26,576
計	28,535	27,239	27,666	27,242

### (2) 成分献血

免役グロブリン製剤の適応症の拡大等により、血漿分画製剤製造に必要な原料血漿量は増加しており、血漿成分献血は年々増加傾向にあることから、大幅な献血者数の増加にならないよう、分割製造用血小板採血の推進及び循環血液量(体重)に応じた血漿採取の実施により、必要血漿量の確保に努める計画としている。

(単位：人)

	令和2年度実績	令和3年度計画	令和3年度見込	令和4年度計画
血漿献血	8,717	8,740	9,023	8,658
血小板献血	4,189	4,270	4,221	4,270
分割製造用	2,528	2,177	2,266	2,522
分割製造以外	1,661	2,093	1,955	1,748
計	12,906	13,010	13,244	12,928

※ 分割：1人分の献血者から2倍の血小板を採血し、2分割する献血

### (3) 重点項目

医療機関からの需要及び輸血による安全性向上のため、400mL献血の推進を図るとともに、輸血用血液を安定的に確保するため、移動採血の稼働効率化を図ることを重点項目として目標達成に努める。

ア 400mL献血者率を97.6%以上とする。

イ 移動採血車1稼働あたりの献血者数45人以上を目指し、その向上に努める。

### (4) 稼働計画

移動採血車及び献血ルームの稼働計画を策定し、献血者確保に努める。

移動採血車	献血ルーム	稼働数合計
550 台	363 日	913 稼働

### 3 献血の普及啓発

#### (1) 各種団体等との連携

##### ア 行政との連携

県、市町村との連携を図り、採血・供給状況等についての情報共有を密にし、献血者確保に向け協働する。

##### イ 各種団体への協力要請

ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年会議所、市町村献血推進協議会、市町村消防団、宅地建物取引業協会等、献血推進団体との協力関係の強化を図る。

商業施設をはじめとする街頭献血協力団体の協力を得ながら献血者確保に努める。

##### ウ 献血セミナーの開催

将来の献血の担う小・中・高校生等を対象に、献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的とした献血セミナー開催に向け、各校への働きかけを強化する。

さらに、企業・地域に対しても働きかけを行い、献血推進につなげる。

##### エ 学生ボランティアの育成

県内大学等の学生により構成する「山形県学生献血推進協議会」の拡充を図り、学生ボランティアを育成し、同世代への献血への呼びかけを行う。

#### (2) 広報及びキャンペーン活動の推進

##### ア 県内報道機関への協力要請

メディアを通じ、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、県内報道機関への情報提供及び取材要請を積極的に実施する。

##### イ 電子情報媒体の活用

献血会場の告知、血液の過不足状況、キャンペーン情報等を、ホームページを通じ積極的に発信する。また、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」を活用し、メール・SNS 配信による会員への情報提供の充実を図る。

##### ウ 各種キャンペーンの展開

国民及び県民に対する献血の普及啓発を目的とした各種キャンペーンを展開する。

実施月	内 容
通年	いこう！献血キャンペーン
6月	世界献血者デー
7月	愛の血液助け合い運動
8月	東北ブロック統一キャンペーン（サマーキャンペーン）
12月	全国学生クリスマス献血キャンペーン
1・2月	はたちの献血キャンペーン

### (3) 献血予約及び複数回献血協力の推進

移動採血及び献血ルームにおける事前予約を推進し、献血予約率の向上を図るとともに、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の会員拡充に努め、複数回献血協力を推進する。

## 4 調査、研究事業の推進

「山形県合同輸血療法委員会」の活動を推進し、「輸血療法セミナー」等の開催により、輸血医療についての最新の情報を共有する等、関係者との相互理解の機会創出に努める。

## 5 研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部学生及び県内医療機関に配属の初期研修医のうち、当センターにおける地域医療研修を希望する医師を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施する。

## 6 造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施し、骨髄バンク事業を支援する。

## 7 血液センターの移転計画

血液事業本部が策定した地域センター施設整備更新計画に基づき、山形センターの移転新築整備については、当初計画から1年延長し、令和3年度から令和4年度の計画としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により土地選定が難航しているため、さらに1年延長した計画とする。

年度	事業内容
令和4年度	移転用地決定
	土地取得
	地質調査
	設計監理業者選定
	基本設計
	施工業者選定（入札）
令和5年度	工事施工
	初度調弁整備
	竣工